

## 団体概要等

### 1 受賞団体概要

#### このまちに暮らしたいプロジェクト

設立年月日	平成 31 年 4 月 1 日設立 (平成 25 年 9 月プロジェクト開始)
代表者	代表 河原 正生
設立の目的	古田地区の中学生と住民が共に将来の地域の暮らしを考え、住民自身で今できる行動を起こし活動することで、多様な世代が幸せに暮らせるコミュニティのあり方を提案し、住民による持続可能なまちづくりを推進する。
主な活動	冒険あそび場「ワンダふるたパーク」(イベント)の実施及び冒険あそび場づくりのための会議・準備やワークショップ
受賞に係る功績の概要	「古田中学校の生徒と地域住民が一緒になり、30年後の地域の暮らしを考え、持続可能な地域の将来像を実現するため、中学生の発案で「みんながしあわせに使える公園」をテーマに、子どもから高齢者まで多様な世代が集まって楽しめるワークショップや体験イベント等を実施することで、公園が多世代交流の拠点となり地域住民の絆が深まっている。」
功績の内容	<p>平成 25 年度より中学生が住民とともに、人口減少などの社会課題と向き合い、住みなれた地域で多様な世代が共生できる持続可能な将来像を描き、そのために今、住民自身でできる行動を起こす住民自治を目指して公民館を拠点に始まったプロジェクトである。</p> <p>価値観や生活スタイルの変化、公園利用に伴う様々な規制により利用者が減少した公園のあり方を中学生が主体となって地域住民と一緒に再考し、「みんながしあわせにつかえる公園・あそび場づくり」をテーマとして、子どもたちが自分で遊具を作りながら創意工夫して遊ぶプレーパークゾーンや、中学生が提供・運営し大人もくつろげるカフェゾーン、シニア世代が披露する大道芸コーナーを設けた「冒険遊び場ワンダふるたパーク」(年 4 回)を開催し、毎回 100 名を超える来場者を集めるなど、世代をつなぐ地域の居場所として、一般的な街区公園を再生させた。</p> <p>このイベントを通して中学生や小学生、子ども会、町内会、女性会、近所の工作指導者、公民館活動グループ、地元郵便局、地元ボランティアグループなど、様々な世代間・団体間の新たな交流と連携が広がっており、大人にとっても第三の居場所としてお互いの価値観を学びあえる人間形成の場となっている。</p> <p>また、中学生の企画したイベントに小学生が参加し、その小学生が中学生となって今度は自分で企画したり、高校生・大学生となってもそれぞれの環境で同志を集めて手伝うなど、公園を起点とした交流の好循環を生み出し、公園という地域の居場所が、顔の見える人間関係作りや世代をつなぐ役割を果たすことで、地域の付加価値が高まり、「このまちに暮らしたい」「戻ってきたい」と感じられるような、住み続けられるまちづくりに繋がっている。</p>

## 2 表彰式

- (1) 日 時：令和4年（2022年）6月14日（火）10：30 ～ 11:05
- (2) 場 所：国土交通省 3号館8階特別会議室（東京都千代田区霞ヶ関2-1-3）
- (3) その他：「このまちに誇りたいプロジェクト」からは、河原代表が出席。

### <参考>過去5年間の広島市における表彰団体

#### (1) 「まちづくりアワード（功労部門）」（旧 まちづくり功労者国土交通大臣表彰）

年度	団体名
平成29年度（2017年度）	広島駅南口Bブロック市街地再開発組合 広島駅南口Cブロック市街地再開発組合
平成30年度（2018年度）	ボランティアほことり会
令和元年度（2019年度）	瀬野川流域郷土史懇話会
令和2年度（2020年度）	プラットホーム安芸飯室運営委員会
令和3年度（2021年度）	まちなか西国街道推進協議会 くも度を愛し守る会

#### (2) 「まちづくりアワード（実績、構想・計画部門）」（旧 まちづくり法人国土交通大臣表彰）

年度	団体名
平成29年度（2017年度）	特定非営利活動法人セトラひろしま （まちの活性化・魅力創出部門 国土交通大臣賞）